

映画  
上映

ぴあ映画  
初日満足度1位  
(11月3日ぴあ調べ)

文部科学省  
特別選定映画

厚生労働省  
推薦映画

主催 相模原市立 あじさい会館

共催 相模原市

相模原市認知症地域支援・

ケア向上ネットワーク会議

認知症の母と耳の遠い父と離れて暮らす私

# ぼけますから、



## よろしくお願ひします。

ドキュメンタリー映画

広島県呉市。泣きながら撮った1200日の記録

9月21日 土 相模原市立あじさい会館ホール

・上映 13:30~15:40 (開場 13:00~)

・チケット 600円 ・定員 300人(先着順)

◎ チケットの販売(前売り) 下記にて ◎

・あじさい会館管理事務室

☎ 042-759-3963

・市社会福祉協議会 緑区事務所

(緑区合同庁舎2階)

☎ 042-775-8601

・市社会福祉協議会 南区事務所

(南保健福祉センター1階)

☎ 042-765-7085



監督・撮影・語り

ひとり娘

### 信友直子

プロデューサー：大島新 演 潤 共同プロデューサー：前田亜紀 堀 治樹 山口浩史  
編集：目見田 健 実景撮影：南 幸男 音響効果：金田智子 ライン編集：池田 聡 整音：富永憲一  
配給宣伝協力：ポレポレ東中野 ウッキー・プロダクション 製作・配給：ネツゲン フジテレビ 関西テレビ

2018年/日本/カラー/102分/©「ぼけますから、よろしくお願ひします。」製作・配給委員会

[www.bokemasu.com](http://www.bokemasu.com)

同時開催

認知症でも安心して暮らせるためのイベント

10:00 ~ 16:00

※どなたでもご参加いただけます。



# カメラを向け、初めて気づいた。 両親がお互いを思い合っているということ。

**母、87歳、認知症。  
父、95歳、初めての家事。**

広島県呉市。この街で生まれ育った「私」(監督・信友直子)は、ドキュメンタリー制作に携わるテレビディレクター。18歳で大学進学のために上京して以来、40年近く東京暮らしを続けている。結婚もせず仕事に没頭するひとり娘を、両親は遠くから静かに見守っている。

そんな「私」に45歳の時、乳がんが見つかる。めそめそしてばかりの娘を、ユーモアたっぷりの愛情で支える母。母の助けで人生最大の危機を乗り越えた「私」は、父と母の記録を撮り始める。だが、ブラインダーを通し、「私」は少しずつ母の変化に気づき始めた…

病気に直面し苦悩する母。95歳で初めてリンゴの皮をむく父。仕事を捨て実家に

帰る決心がつかず揺れる「私」に父は言う。「(介護は)わしがやる。あんたはあんたの仕事をせい」。そして「私」は、両親の記録を撮ることが自分の使命だと思い始め—

**大反響のテレビドキュメンタリー、  
待望の映画化。**

娘である「私」の視点から、認知症の患者を抱えた家族の内側を丹念に描いたドキュメンタリー。2016年9月にフジテレビ/関西テレビ「Mr.サンデー」で2週にわたり特集され、大反響を呼んだ。その後、継続取材を行い、2017年10月にBSフジで放送されると、視聴者から再放送の希望が殺到。本作は、その番組をもとに、追加取材と再編集を行った完全版である。娘として手をさしのべつつも、制作者としてのまなざしを愛する両親にまっすぐに向けた意欲作。



港町呉は坂の多い町でもあります。買い物するにも一苦勞。結婚以来、父と母はずっとここで暮らしてきました。

ひとり娘  
ドキュメンタリー監督  
**信友直子**



1961年広島県呉市生まれ。東京大学卒業。在京キー局で数多くのドキュメンタリー番組を手掛ける。放送文化基金賞奨励賞、ニューヨークフェスティバル銀賞、ギャラクシー賞奨励賞など受賞多数。



涙。椅子から立てないくらいの衝撃でした。(56歳女性)

いまだに涙がとまりません。思いやりが人生を豊かにすること。忘れずに生きていきたいです。(49歳女性)

まるでお家にお邪魔しているように。心がキューっと苦しくなったり、ぼつ、と心が温かくなったり。(29歳女性)

お三方の声のなんと優しいこと。こんな優しさに満ちた声の響きを聞いたことはありませんでした。(74歳男性)

番組にいただいた感想の一部です

考えさせられます。夫婦とは家族とは老いるとは…娘さんの泣きながらの撮影にもらい泣きました。(55歳女性)



ドキュメンタリー映画

## ぼけますから、よろしくお願ひします。

### 世界アルツハイマーデーって…!?

1994年9月21日、スコットランドのエジンバラで第10回国際アルツハイマー病協会国際会議が開催されました。会議初日であるこの日を「世界アルツハイマーデー」と宣言し、アルツハイマー病等に関する認識を高め、世界の患者と家族に援助と希望をもたらすことを目的としています。